

竹園学園 つくば市立竹園東中学校 八年

## テクノロジーと人間の生き方

慶<sup>けい</sup> 徳<sup>とく</sup> 郁<sup>いく</sup> 子<sup>こ</sup>

生まれた時には既にデジタルデバイスに囲まれ、テクノロジーを駆使してあらゆる問題解決を図れる時代に生きているはずの私には、どうしても解けない疑問があります。テクノロジーで幸せになれるはずだったのに、なぜ人々は多忙なままで常に疲弊しているのでしょうか。

一〇〇年前の主婦が担っていた重労働を確かにテクノロジーは解放してくれました。洗濯物は水汲みやのり付けをしなくても、自分の代わりに洗ってくれる箱を買ってきて、壁から延ばされた蛇口にホースをつけたら、後は指一本でスイッチを押すだけです。冷やしてくれる箱の登場で、肉や魚が腐らないように毎日買い物に行く必要もなくなりました。お米を研いでくれる箱のおかげで、火加減のために台所に張り付いている必要もなくなりました。

なんて素晴らしいことでしょう！自分に代わってテクノロジーが仕事をしてくれるおかげで、赤ちゃんをあやす時間を作ることができたのです。この時代、テクノロジーは人間社会の問題解決の心強い伴走者であったと思います。でももっと便利に、もっと快適に。彼らは次々と交代しエンドレスに登場し続けます。重い百科辞典の難読な解説文を消化する仕事はAIにお任せ。

情報収集は余計な部分をそぎ落とし、自分に関係することだけをコンパクトにまとめたニュースの寄せ集めを、クリッピングサービスが届けてくれます。よし、これでもっと優先順位の高い事柄に時間を使える。

しかし、より最速の、より高度な性能を集めた最新のスマホ、インターネットやアプリが増え、今やこの世界を人

との関係の作り方や自分の人生を決定づける選択まで、それらに頼り、それらの存在を前提とした生き方をするようになりました。

現実はどうでしょうか？今、赤ちゃんはお母さんの腕の中ではなく、バウンサーに揺らされています。人の手ではなく、電力が赤ちゃんを心地よく快適にする角度やスピードを計算し、ゆらゆら揺らしています。

学校から帰ると、話をするのは疲れた親ではなく即座に相手をしてくれるSNSでつながった友達です。それでも子供達は次から次へと会話の相手を変えて本当の居場所を探し続けます。表面的ではない、心から共感してくれる相手を見つけるために。

知識へのアクセスの負担を軽くし、より学びの世界を拡げてくれるはずだった時間は、学びに向かう代わりに、どのようにAIに指示すれば望む回答が得られやすくなるか、質問内容をひねり出す時間になりました。そして、人々は自分で思考する責任を放棄して簡単に手に入れた解答に、なぜか満足感が得られない消化不良の気持ちを抱えたまま眠りにつくのです。

デジタルネイティブである私からみたこの世界は、時には異様にも映ります。電車でもレストランでも、人々が動

かしているものは人間の情緒的な交流ではなく親指ばかりです。

私は気付いています。テクノロジーに思考を委ね続けていたら、人と関わる力を失い、自分の能力を信頼できなくなることを。心強い伴走者であったはずのテクノロジーは、いつの間にか人間を抜いて走り続け、私たちはおいていかれないように必死に食らいつき走り続けています。幸せでないのは当然です。際限なく追い求め、疲れ果てて倒れた時、初めて自分が追いかけていたものの正体がかつての大切な伴走者だったことに気付く瞬間を想像してみてください。私は、私が大切に思う家族や友人、そしてこの世界の人たちに果てしない便利さを求めて疲れ果ててほしくありません。

そのために私が今できること、それはテクノロジーは私達の問題解決に力を貸してくれる存在なのであって、それらの維持管理や操作のために人生の大半を費やす必要はないことを決して忘れないことです。そして、そのことを皆さんに、更にはいつか、今よりもっと進化した時代を生きるであろう次世代の子供達に、こうして私の思いを言葉にし、訴え続けていきます。